Ⅲ年生	教科：日本史 B	単元名：博物館見学・体験授業	10 月～1 月	10　時間

実践校：活水高等学校	授業担当者：岩永　崇史

目標	① 日本の通史を事実に基づき把握し、歴史の構造とその変化の過程を理解する。 ② 歴史を現代の課題と関連して主体的に学び、歴史的思考力を養う。 ③ 体験学習を通して、歴史の楽しさ、奥深さを学び、自ら学び、自ら行動できる力を養いつつ、生涯教育のきっかけの一つとなる授業を生徒と共に分かち合うこと。

学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連
オリエンテーション	1	博物館見学のポイントを押さえる	博物館の展示物に対して興味関心を持って見学できたか。
常設展・くんち三八一年展見学	2	研究員の解説をしっかり聞く。	
振り返り、次回の見学に向けての留意点を考える	1	ワークシートに沿って、考えや質問事項などを記入する。 感想や、質問事項をまとめる。 次回の見学時に、積極的に参加できるように促す。	ワークシートに漏れなく記入できたか。 博物館の展示物に対して興味関心を持って見学できたか。
企画展ボードイン展・男鹿和雄展	2	研究員の解説をしっかり聞く。 ワークシートに沿って、考えや質問事項などを記入する。絵画と平和の繋がりを考えさせる。	ワークシートに漏れなく記入できたか。
振り返り、次回の見学に向けての留意点を考える	1	感想や、質問事項をまとめる。 次回の見学時に、積極的に参加できるように促す。	博物館の展示物に対して興味関心を持って見学できたか。
常設展・長崎版画体験授業	2	研究員の解説をしっかり聞く。 長崎版画を時間内に完成させる。	長崎版画作成に集中して取り組み、時間内に完成させることができたか。
体験学習を通して学んだことを分かち合う。	1	感想や、質問事項をまとめる。 博物館の展示内容は、「その時点の歴史」としての意味だけではなく、現代生活にも繋がっていることを生徒と共に分かち合う。	長崎の歴史は、世界と繋がっており、外国との交流の中で文化が育まれてきたことを分かち合う。

評価規準	① 「長崎くんち」の始まり、特徴を理解できたか。 ② 「ボードイン」が果たした役割を理解できたか。 ③ 「男鹿和雄展」で伝えられているメッセージを理解できたか。 ④ 長崎版画はどのようにして誕生したのか、理解できたか。 ⑤ 長崎版画はどのような技法で制作されたのか、素材などを理解できたか。 ⑥ 企画展・常設展の内容が現代生活にどのような形で繋がっているのか、考えることができたか。 ⑦ 「浮世絵」と「錦絵」、「長崎版画」の相違点や共通点を理解できたか。 ⑧ 時間内に「長崎版画」合羽摺を仕上げることができたか。

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

2015 年 10 月 9 日
長崎歴史文化博物館
出口幹子先生へ
長崎歴史文化博物館見学授業
「常設展・くんち三ハー年展」を体験して
心に残った一言

1.「長崎くんち」はどのようにして始まったのか？
2.「長崎くんち」の特徴はどのようなものがあるのか？
3.「長崎くんち」は現代生活にどのようなメッセージを伝えているとあなたは考えますか？

「質問」「感想」

Ⅲ年　組　番（　　）

2015 年 12 月 17 日
長崎歴史文化博物館
古豊先生、矢田先生へ
長崎歴史文化博物館見学授業
「企画展ボードイン展・男鹿和雄展」を体験して
心に残った一言

1.「ボードイン展」の中で印象に残ったものは何か？
2.「男鹿和雄展」の中で印象に残ったものは何か？
3. 2つの展示はどのようなメッセージを私たちに伝えようとしているのでしょうか？

「質問」「感想」

Ⅲ年　組　番（　　）

2016 年 1 月 15 日
長崎歴史文化博物館
出口幹子先生へ
長崎歴史文化博物館見学授業
「長崎版画体験授業」を体験して
心に残った一言

1. 長崎版画はどのようにして誕生したのか？
2. 長崎版画はどのような技法で制作されたのか？(素材)
3. 長崎版画は現代生活にどのようなメッセージを伝えているとあなたは考えますか？

「質問」「感想」

Ⅲ年　組　番（　　）

＜生徒の感想＞
〇小さい子どもから大人まで長崎くんちのためにすごく練習してきたことが伝わってきた。昔から続いているお祭りに長崎に生まれてきたから直接出会えたのでとても嬉しいです。
〇薬草のにおいを嗅ぐ展示物があり、その中に乳香がありました。聖書の授業の中で、乳香は赤ちゃんのミルクみたいな匂いだろうと思っていたら全く違い、ものすごく強烈なにおいでした。
〇出し物を見ることができて良かった。時間が少なくていろいろ回れなかったが、長崎のおくんち文化について知ることができて良かった。
〇戦争中もおくんちが行われたということを初めて聞いてびっくりした。長い間受け継がれてきていてすごいことだと思ったし、これからもずっと続いてほしい。伝統的なものだからこそ出る人たちはあんなにがんばっていらっしゃるのだなと思った。
〇長崎くんちが、日本三大くんち（福岡、佐賀、長崎）に入っているのは特に驚きました。
◇ボードイン展で、カメラや昔の写真を見て、いろいろな歴史が詰まっているな、と思った。
◇ボードイン展で、昔の人は立ったまま真顔で写っているイメージがあるが、いろいろな写り方があり面白かった。
◇絵の奥深さを感じた。古くからの写真が残っていてすごく印象深かった。
◇男鹿和雄さんの絵はどれも心に響くもので、見るだけでたくさんのことが伝わってくる絵でした。
◇五代友厚の写真はマジでテンション上がった。二宮の展示もテンション上がった。
◇18 年間長崎で育ったが、今日のボードイン展を通して知らなかったことを知ることができて良かった。
☆初めて長崎版画を体験し、水のつけ具合が難しく、滲んでしまいました。また機会があればやってみたいです。
☆違う絵柄を５枚色摺りするだけで絵（版画）が完成するのはすごい！
☆長崎版画はどんどんできあがっていくので、とても楽しかったです。できあがりはすごくきれいでした。
☆機械に頼ることは楽だが、版画を体験する機会は滅多になく、体験できて良かった。
☆卒業前に、長崎の歴史をさらに具体的に知ることができて良かった。
☆長崎は色々な国の文化が流れてきて、それが独自の形で進化していったものなのだとわかりました。
☆常設展を見ていると、「長崎の歴史の豊かさ」を感じ、この街で育ってよかったなと感じます。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

「生徒を動かす」ためには、教師集団、学校集団を動かすことが必要である。安全面を最優先し、他授業とのバランス、学校の一日の流れ、ホームルームクラスへの周知など、調整すべきことがたくさんある。立案→起案書→相談→公文書作成、申請→学年団調整→生徒への説明→公用車の手配→見学当日→振り返り、このような一連の流れを通常授業と併行して行う苦労も、見学当日や、長崎版画体験中の生徒の笑顔や、活き活きとした表情や、きらりと光る感想文によって、すーっと消えていく。研究員の皆様の丁寧なご対応に深く感謝申し上げる。

博物館との連携
博物館を見学し、研究員の先生方に直接解説していただくことによって、「教員、生徒の学びが深まり」、「歴史へのアプローチ」が座学で終始するのではなく、主に長崎の歴史を軸に「立体的」「具体的」に「体験」でき、生徒たち自身の長い人生の中で、「歴史の楽しさ」や「奥深さ」の一端を知ることができると信じている。